
令和 7 年度

全国学力・学習状況調査結果及び分析

佐倉市教育センター

目 次

<u>I 令和7年度全国学力学習状況調査について</u>	1
------------------------------------	---

II 教科の分析

○ 小学校 国語	2
○ 小学校 算数	3
○ 小学校 理科	4
○ 中学校 国語	5
○ 中学校 数学	6
○ 中学校 理科	7

<u>III 児童生徒質問紙の分析</u>	8, 9
-----------------------------	------

<u>IV 学校質問紙の分析</u>	10
--------------------------	----

I 令和7年度 全国学力・学習状況調査について

1 調査実施日

令和7年4月17日（木）

2 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（「令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より）

3 結果公表の趣旨

本調査において、市内小中学校全体の結果を公表することは、佐倉市教育委員会が保護者や地域住民の方々に対し、説明責任を果たすことになる。また、分析した調査結果は、各学校における教育活動の改善に生かすとともに、佐倉市教育委員会の施策に資するために活用する。

ただし、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎない。以上のことを考慮し、学校では、教育活動の取組状況と本調査結果の分析を踏まえた指導改善策を併せて示すことで、児童生徒の学力向上に資することが望ましい。

4 調査対象

学校種	実施校数	当日実施した児童生徒数		
		国語	算数・数学	理科
小学校	23校	1,258人	1,258人	1,260人
中学校	11校	1,161人	1,159人	1,156人

5 結果一覧

	小学校国語 平均正答率	小学校算数 平均正答率	小学校理科 平均正答率	中学校国語 平均正答率	中学校数学 平均正答率	中学校理科 IRTスコア
佐倉市	64	57	56	55	50	499
千葉県	66	58	57	54	47	496
全国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

Ⅱ 教科の分析 【小学校国語】

Ⅰ 小学校国語の平均正答率

問題数 Ⅰ 4 問	佐倉市（公立）	64%
	千葉県（公立）	66%
	全 国（公立）	66.8%

Ⅱ 小学校国語に関する調査の結果の概要

- 知識及び技能に関する内容の正答率が概ね良好であった。
- 短答式の問題の正答率が概ね良好であった。
- ▲書くこと・読むことに関する思考力、判断力、表現力等の内容に課題があった。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

Ⅲ 小学校国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができている。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができている。
- 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができている。
- ▲目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
- ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。
- ▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

Ⅳ 小学校国語の改善策

- ☆文章を書く際に「何のためにその文章を書きたいのか」という目的を明確にすることが大切である。その目的を達成するには「何を書きたいのか」を整理し、書く内容の中心を決めることが、効果的な指導につながる。
- ☆複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読む指導をすることが重要である。

Ⅱ 教科の分析

【小学校算数】

1 小学校算数の平均正答率

問題数 16問	佐倉市（公立）	57%
	千葉県（公立）	58%
	全国（公立）	58.0%

2 小学校算数に関する調査の結果の概要

○数と計算に関する内容の正答率が概ね良好であった。

○選択式の問題の正答率が概ね良好であった。

▲測定の領域に関する内容に課題があった。

▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

3 小学校算数に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

○異分母の分数の加法の計算をすることができている。

○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができている。

○小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができています。

▲数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分としてとらえることに課題がある。

▲台形の意味や性質について理解することに課題がある。

▲目的に応じて適切なグラフを選択して増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

4 小学校算数の改善策

☆様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を他者に分かりやすく表現できるように指導することが大切である。

☆図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質に基づいて図形を弁別できるように指導することが大切である。

☆数直線上の目盛りが表す数を分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解を深めるように指導することが大切である。

Ⅱ 教科の分析 【小学校理科】

1 小学校理科の平均正答率

問題数 17問	佐倉市（公立）	56%
	千葉県（公立）	57%
	全国（公立）	57.1%

2 小学校理科に関する調査の結果の概要

- 地球を柱とする領域に関する内容の正答率が概ね良好であった。
- 短答式の問題形式の正答率が概ね良好であった。
- ▲エネルギーを柱とする領域に関する内容の正答率に課題があった。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

3 小学校理科に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを知識が身に付いている。
- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができている。
- ▲レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。
- ▲身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識に課題がある。

4 小学校理科の改善策

- ☆観察、実験の結果を比較し、差異点や共通点を捉えることができるように指導することが重要である。
- ☆学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関連付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深める指導をすることが大切である。

Ⅱ 教科の分析

【中学校国語】

1 中学校国語の平均正答率

問題数 4問	佐倉市（公立）	55%
	千葉県（公立）	54%
	全国（公立）	54.3%

2 中学校国語に関する調査の結果の概要

- 読むことに関する思考力・判断力・表現力等に関する内容の正答率が概ね良好であった。
- 短答式の問題の正答率が良好であった。
- ▲話すこと・聞くことに関する思考力・判断力・表現力等に関する内容に課題があった。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

3 中学校国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができています。
- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができています。
- 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができています。
- ▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。
- ▲文書の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

4 中学校国語の改善策

- ☆話の内容を踏まえ、話の要点や根拠が明らかになっているか、説明が不足していないか、中心となる事柄が強調されているかなど、自分の考えが聞き手にわかりやすく伝わっているかを確認するとともに、表現を工夫するための資料や機器の使い方について、検討する指導をすることが大切である。
- ☆作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握する指導をすることが重要である。

Ⅱ 教科の分析

【中学校数学】

Ⅰ 中学校数学の平均正答率

問題数 15問	佐倉市（公立）	50%
	千葉県（公立）	47%
	全国（公立）	48.3%

Ⅱ 中学校数学に関する調査の結果の概要

○データの活用の領域に関する内容の正答率が良好であった。

○選択式の問題形式の正答率が良好であった。

▲図形の領域に関する内容に課題があった。

▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

Ⅲ 中学校数学に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

○事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場合において、反例をあげることができている。

○必ず起こる事柄の確立について理解している。

○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができている。

▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

Ⅳ 中学校数学の改善策

☆式の意味を読み取り、事象の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。

☆表、式、グラフをどのように用いればよいかを説明する活動を取り入れ、問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるように指導することが大切である。

☆問題の条件を変えて共通する性質を見いだすなど、統合的・発展的に考察する指導をすることが重要である。

Ⅱ 教科の分析 【中学校理科】

Ⅰ 中学校理科のIRTスコア

問題数 26問	佐倉市（公立）	499
	千葉県（公立）	496
	全 国（公立）	503

2 中学校理科に関する調査の結果の概要

- 粒子を柱とする領域の正答率が概ね良好であった。
- 選択式の問題形式の正答率が概ね良好であった。
- ▲地球を柱とする領域の正答率に課題があった。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

3 中学校理科に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 音の性質に関する情報を収集して、まとめを行う学習活動の場面で、資料や情報の信頼性についての知識及び収集の技能が身に付いている。
- 身近な電化製品の電気回路について探求する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いている。
- 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。
- ▲考察をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。
- ▲大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題がある。

4 中学校理科の改善策

- ☆理科の授業では、考察の妥当性を高めるために、計画した観察、実験の結果から何が分かればよいのかをはっきりさせてから観察、実験を行うなどして、科学的な過程を振り返り、探求の見通しをもたせることが大切である。
- ☆化学変化を原子や分子のモデルで表すなど、自然の事物・現象を質的・実験的な視点で捉えることが大切である。

Ⅲ 児童生徒質問紙の分析

※ ○：良好なもの ▲：課題が見られるもの ◎考察

基本的生活習と学習習慣

- 小中学生ともに県、全国平均と比べて肯定的回答が高い質問
 - 「将来の夢や目標を持っている」
 - 「読書が好き」
 - 「自宅にある本の冊数」
 - 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」
- 小学生で好きな教科を問う設問において、全国平均よりも高かったのは、
「理科（＋３．２）」である。
- 中学生で好きな教科を問う設問では、全ての教科が全国平均よりも高い。
「国語（＋２．１）」、「数学（＋６．３）」、「理科（＋５．８）」
- 小学生は、「人の役に立つ人間になりたい」の回答が県、全国平均と比べて高い。
- 中学生は、県や全国と比較して学校以外の学習時間が長い傾向にある。
- ▲小学生は、県や全国と比較して学校以外の学習時間が短い傾向にある。
- ▲中学生は、「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツ体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある」の回答が県、全国平均と比べて低い。
- ◎小中学生ともに「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」の質問において、肯定的な回答をした児童生徒は、各教科の平均正答率が高い傾向が見られた。また、小中学校ともに自宅にある本が０から２５冊の子どもに比べ、１０１冊以上ある児童生徒は、各教科で正答率が高くなる傾向が見られた。
- ◎小中学生ともに「普段、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（スマートフォン等を含む）をするか」において、使用時間が少なければ少ないほど、各教科の平均点が高い傾向が見られた。
- ◎小学生において、「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時間に起きている」「自分にはよいところがある」という質問に対して、肯定的な回答をした児童は各教科の平均正答率が高い傾向が見られた。
- ◎中学生において「学校に行くのは楽しい」「新聞を読んでいる」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は各教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

ICTを活用した学習状況

- ▲小学校、中学校ともに、学習の中でタブレットなどのICT機器を活用することに関して、有用感を感じている児童生徒は、県や全国と比較して低い傾向にあることがわかった。
- ▲小学校、中学校ともに、授業におけるICT機器の使用頻度は、県、全国の平均を大きく下回った。
- ◎タブレットなどのICT機器の使用頻度は、少ないことがわかった。小学生は、週3回以上、中学生は、月1回以上と使用頻度の回答をした児童生徒は、どの教科においても平均正答率が高い傾向がある。一方で、月1回未満の使用頻度の回答をした児童生徒は、全ての教科において平均正答率が低いことがわかった。ICT機器は、単に使用すればよいというのでは不十分であり、児童生徒の実態や学習内容に応じて、効果的に活用することが求められる。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組

- 小学校では、理科の授業で、「問題に対して答えがどのようなになるのか自分で予想(仮説)を考えている。」と回答した児童の割合は、県、全国の平均に比べて高かった。
- 中学校では、理科の授業で、「課題について観察や実験をして調べていく中で自分や友達の学びが深まったか、あるいは新たに調べたいことが見つかったか振り返っている」と回答した生徒の割合は、県、全国の平均に比べて高かった。
- 小学校では、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」と回答した児童の割合は、県、全国の平均に比べて高かった。
- 中学校では、「友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した割合は94%と高かった。
- ▲小学校では、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答した割合は71.1%と低かった。
- ◎小学校、中学校ともに「課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいる」と回答した児童生徒の各教科の平均正答率が高いことがわかった。児童生徒の興味関心を引き出し、探求する力を育む授業を行うことが大切である。
- ◎自分の考えをまとめる活動は、本時の学習を振り返り、学びを深める重要な時間である。児童生徒の実態に即した学習のまとめを行い、振り返りを行うことが望ましい。小中学校を通して自分の考えをまとめる活動を、続けていくことが重要である。

Ⅳ 学校質問紙の分析

※ ○：良好なもの ▲：課題が見られるもの ◎：考察

学校運営に関する状況 / 教員の資質向上に関する状況

- 小学校、中学校ともに、学校運営上の課題への対応に当たっては各教職員の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしている割合が県や全国に比べて高かった。
- 小学校、中学校ともに、教職員が困っている時、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築している割合が県や全国に比べて高かった。
- ◎小中学校において、学級での問題や学校運営の課題に対して、組織的に対応して、解決を図っていることがわかった。

ICTを活用した学習状況

- 小学校において、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会が県や全国に比べると多くあることがわかった。
- 小学校、中学校ともにPC、タブレットなどのICT機器を不登校児童生徒に対する学習活動の支援で使用している割合が高いことがわかった。
- ▲ICT機器を活用した学習状況は、県や全国に比べると使用頻度が少ないことが分かった。
- ◎佐倉市におけるICT機器を活用した学習状況は、県や全国に比べると使用頻度が少なく、「自分の考えをまとめ、発表、表現する場面」「教職員と児童生徒がやりとりをする場面」「児童生徒同士がやりとりをする場面」いずれの場面についても、県、全国と比べ数値が低かった。佐倉市では、タブレットの使用頻度が『週に3回以上』と回答している割合が高かった。県、全国と比べると毎日使用する頻度が少ないので、使用頻度の差を埋めていく努力をしていく必要がある。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 小学校、中学校ともに、「友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題解決に取り組んでいる」と回答した割合が県、全国と比べて高かった。
- ▲小学校、中学校ともに、授業において自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発言や発表を行うことができていると回答した割合が県、全国と比べて低かった。
- ◎小学校、中学校全般的には、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況の質問に対して、概ね肯定的に回答していることから、取組状況は良好である。

家庭学習

- 小学校、中学校ともに、「家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動をよく行った」と回答した割合が県や全国に比べて高かった。
- 中学校では、「生徒が行った家庭学習の課題を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしている」と回答した割合が県や全国に比べて高かった。
- ◎佐倉市では、佐倉型カリキュラム・マネジメントのもと、学校での学習時間と家庭での学習時間、両方においてバランスよく学んでいる。家庭学習の具体的な方法の提示をして、児童生徒の自主的な学習態度を育成することが重要である。